評価計画・評価から評定への総括方法

令和5年度 江戸川区立鹿本中学校

1. 各教科の観点別評価について（通知表の評価内容）

各教科の観点別評価規準は、以下のように3観点（Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ．）で定めます。

※Ⅰ．知識・技能 Ⅱ．思考・判断・表現 Ⅲ．主体的に学習に取り組む態度

国語	Ⅰ	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
	Ⅱ	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
	Ⅲ	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。
社会	Ⅰ	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。
	Ⅱ	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的、多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。
	Ⅲ	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
数学	Ⅰ	・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
	Ⅱ	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
	Ⅲ	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。
理科	Ⅰ	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
	Ⅱ	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
	Ⅲ	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
音楽	Ⅰ	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱等で表している。
	Ⅱ	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさ味わって聴いたりしている。
	Ⅲ	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
美術	Ⅰ	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
	Ⅱ	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
	Ⅲ	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
保健体育	Ⅰ	各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けている。
	Ⅱ	運動を実践するための自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。
	Ⅲ	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に取り組もうとしている。
技術家庭	Ⅰ	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
	Ⅱ	生活や社会の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
	Ⅲ	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
英語	Ⅰ	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。
	Ⅱ	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。
	Ⅲ	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

各教科に関する観点別評価は、絶対評価による「A・B・C」の3段階とします。「A・B・C」はそれぞれ以下のような基準となっています。

- A：十分満足できる（80%以上）
- B：概ね満足できる（50%以上 80%未満）
- C：努力を要する（50%未満）

2. 評定について

各教科の評定に関しては、次のような全教科共通の基準に基づき、5段階で評価します。その学期および学年を通じた観点別評価の合計を100とした場合、評定は以下のような基準となっています。

5：90%以上 4：80%以上 3：50%以上 2：20%以上 1：20%未満

《観点別評価と評定の基準一覧》					
観点別評価		評定			
80%→	十分満足できる	A	特に高い程度のもの	5	←90%
			十分満足できる	4	
50%→	概ね満足できる	B	概ね満足できる	3	←50%
	努力を要する	C	努力を要する	2	←20%
			一層努力を要する	1	

3. 総合的な学習の時間・道徳の評価・通知表の所見について

「総合的な学習の時間」の評価は、学年ごとの取り組みに応じて、以下のような学習内容について、記述式で評価します。なお、一つの学習活動が終了した段階で評価しますので、学期ごとの評価ができない場合もあることをご理解ください。また、読書科についても所見で評価する形とします。

【1年：学習内容】

単元名	学習内容
共に生きる	・体験学習 (車椅子・ガトヘルプ)
進路	・身近な人の職業調べ学習 ・職業学習新聞の作成
課題追究	・都内の名所調べ学習 ・校外学習新聞作成

【2年：学習内容】

単元名	学習内容
生き方 (進路)	・職場体験 ・上級学校調べ学習・職業調べ学習
課題追究	・移動教室先の自然調べ学習 ・移動教室新聞作成

【3年：学習内容】

単元名	学習内容
課題追究	・京都・奈良調べ学習 ・修学旅行新聞作成
共に生きる	・鹿本学園との交流学习
進路	・進路学習 ・将来を見つめて

「特別の教科 道徳」は、教科書やさまざまな教材を用いて、道徳的心情を育てていきます。総合的な学習の時間と同様、所見の形で評価します。

通知表の所見について、三者面談を実施した際は、総合所見を三者面談に代えさせていただきますのでご了承ください。